



自然観察路周辺のハエトリグモ

※アダンソンハエトリは亜成体を捕獲後しばらく飼育し脱皮させると、メス成体になることを確認した。

この春に完成した、ふじのくに地球環境史ミュージアムの自然観察路に、つぶらな瞳が愛らしいハエトリグモ達が見られました。春～夏は様々なハエトリグモが見られる季節で、家の中でも多く見かけられるようになったことと思います。ちなみに、ハエトリグモは小さな昆虫などを食べる小型のクモで、人には害がありません。

人家に現れる有名なハエトリグモといえばアダンソンハエトリが挙げられます。自宅でもたくさん見えています。この種は国内に広く分布し、NPO事務所内でも、パソコン画面上のマウスポインターを追いかけているところを捕獲しました。

さて、本題の自然観察路に生息しているハエトリグモを紹介します。2月、観察路整備作業の際に美しいハエトリグモを2匹見つけました。1匹はヨダンハエトリのメスで、腹部の4本線が特徴です。もう1匹はヤハズハエトリのオスで、およそハエトリグモとは思えない長細さと腹部の矢筈状の模様が特徴です。

その後はしばらくハエトリグモ採集モードにはなっていなかったのですが、3月～5月の観察路整備のたび、気づき次第に捕獲していました。まず、かなりの頻度で見られるのはマミジロハエトリです。樹上や草本上でよく見かけます。白い極太眉毛が愛くるしいです。アオオビハエトリは主にアリを食べるので、アリの行列さえ見つければたいてい見つかります。切り倒された竹の上に乗っている本種を撮影しようと近づくと、スススと下方へ隠れます。かといって、竹から飛び降りるわけでもないので、竹を転がせば見つかり、再び下方へススス…という攻防が続きました。

よく晴れた日、樹上を見上げると、葉っぱの上にいるハエトリグモのシルエットが透けて見えたので取ってみました。ヒメカラスハエトリのメスだろうと思いますが、この仲間は分類があまり進んでいないようなので、今後の研究に期待します。ところで、「ハエトリひろば」のホームページで有名な須黒先生の「ハエトリグモハンドブック」が今年の6月に出版されます。気になる方はぜひチェックしてみてください。